

平成27年12月24日

お知らせ

件名	北極海航路に関する衛星AISデータの活用による共同研究成果 ～平成27年度の北極海航路の航行実態～
----	--

お知らせ内容

北海道開発局と国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）及び青森県は、人工衛星から取得されるAIS*データの北極海航路の利活用の可能性を検証する共同研究（別添「参考資料」）を実施しており、このたび、平成27年（2015年）の北極海ならびにその周辺海域での航行実態等を別添資料のとおり取りまとめました。

*AIS（Automatic Identification System）：船舶の識別符号、種類、位置、針路、速力、航行状態及びその他の安全に関する情報を自動的にVHF帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上局との間で情報の交換を行うシステム。

★★ポイント★★

本年（平成27年7月～11月）の航行実態を分析した結果、以下の情報を得ることができました。詳細については、別添のとおりです。

①北極海航路を横断した船舶の航行数

- ・北極海航路（ロシア側）を横断した船舶は24航行（前年は31航行）。
※前年の航行数はノルウェーの研究機関CHNLの分析結果。

②北東アジアから北極海航路への船舶航行数

- ・北東アジア海域から北極海航路内に入った（またはその逆）船舶の航行数は123航行。このうち、津軽海峡を利用したのは少なくとも19航行、宗谷海峡を利用したのは少なくとも30航行。

③新たな船舶の航行を把握

- ・ロシア側航路において、前年には確認できなかったコンテナ船の航行があった。

今回の成果により、多くの船舶が北海道沿岸に接する宗谷海峡や津軽海峡を經由していることが明らかとなりました。北海道開発局は、引き続き共同研究の枠組みに参加しながら、北海道港湾の利用の可能性を検討する基礎資料として、最新動向を継続的に把握していく予定です。

問合せ先	所属	役職	氏名	電話番号
	北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課	港湾企画官 調査係	早川 哲也 島谷 奈緒美	011-709-2311 内線5612 内線5567